



校長室から

令和8年、2026年、午年(うま年)を迎えました。皆さんと共に新年の第一歩を踏み出せることを心から嬉しく思います。干支の「午」は、古来より人とのかかわりを持ち続けてきた力強く駆ける馬を象徴し、躍動、挑戦、情熱、陽気を意味するとされています。そのため、事業が発展する年、努力が実る年、陽気に満ちた年になるとも言われてきました。

昨年を振り返ると、生徒一人ひとりが自分の可能性を信じ、仲間と支え合いながら歩んできた姿が印象的でした。今年はその歩みをさらに力強く「駆ける」一年にしていきたいと思います。学びにおいても、生活においても、部活動においても、困難に立ち向かう勇気と挑戦する心を大切にしながら、学校全体が優しく、明るく、活気のあふれる「ザ・金岡南」であって欲しいと願っています。

学校は3学期に入りました。一番短い学期ではありますが、学年最後の学期として、この1年間の成果をまとめる大切な時期です。特に3年生は進路を決めていくための重大な局面に入りました。新春の空気のように清々しい気持ちで、未来に向かって駆け出す3学期をみんなで創り上げていきましょう。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

校長室から その2

みなさんはツバルという国がある場所をご存知でしょうか。ツバルは、太平洋島しょ諸国と呼ばれるメラネシア・ミクロネシア・ポリネシアに属し、太平洋諸島フォーラム（PIF）に加盟する14の独立国や自治地域の一つです。現在、これらの国や地域は二つの点で注目されています。一つ目は、海洋進出を目指す中国との関係です。経済援助とインフラ投資を通じて影響力を拡大する中国は、いくつかの国々において港湾利用権益の確保などを進めています。二つ目は気候変動による海面上昇の影響です。地球温暖化がこのまま進行すると、水没の危機に直面する国々が含まれているのです。

ツバルは大阪の南東約6500キロ、赤道の向こう側に位置する国で、中国とは国交がなく、台湾と外交関係を維持している世界でも数少ない国のです。この島国は気候変動による海面上昇が続けば50年後には国土を喪失して海面下に沈むと予測されています。面積は26平方キロ、人口は約1万2千人で、堺市北区（面積15.6平方キロ、人口約15万7千人）と比べると、面積は約1.7倍、人口は40分の3程度です。現在、ツバルは護岸工事などの対策を進めるとともに、ニュージーランドやオーストラリアへの移民政策を推進しています。特に、2023年にはオーストラリアとの間で「ファレピリ連合条約」を締結し、毎年280人のツバル人がオーストラリアに移住できる制度を設けました。このまま移住が続けば、35年後にはツバルに住む人がいなくなるとも言われています。

私はかつて、太平洋島しょ諸国の若手公務員との国際交流研修に参加したことがあります。ツバルからの参加者は気候変動による海面上昇が大きな問題となる以前から、土地が海に侵食されて失われていくことに強い危機感を抱いていました。黄金色に輝くお米が実った日本の田んぼを見て「Rice！」と歓声を上げ、ツバルから日本にマグロを輸出できたら素晴らしいと語っていた彼らは、今も祖国を背負い困難に立ち向かっているはずです。少しでも海面上昇を遅らせることができるように、私も自分にできることを続けていきたいと思っています。

子どもの国

私の故郷、横浜市には「子どもの国」という広大な自然公園があります。市内の小・中学生の遠足や校外学習の場所としてもよく利用され、私も学校行事で何度か訪れたことがあります。その行き先を父に告げるたび、いつも寂しそうな顔をしながら自分の中学時代の話をしてくれました。

「子どもの国」はかつて旧日本陸軍の弾薬庫があった場所です。先の大戦中、父が通っていた市内の旧制中学校の生徒、つまり現在の中学生や高校生に当たる年齢の生徒が砲弾に火薬を詰める作業に勤労動員されていました。授業の代わりに学校から弾薬庫に派遣され、大人と一緒に弾薬を製造していたそうです。ある日、大事故が起きて6人の生徒が命を落しましたが、作業は翌日も変わらず続けられたといいます。父は「あいつらが生きていたら、立派な大人になったはずなのに」と毎回同じ話を繰り返しました。「子どもの国」という名前からは想像もつかない悲劇の場所です。

そうした悲劇を二度と繰り返さないために、皆さんには命の大切さを学んで欲しいと思っています。

地震のこと

毎年この時期には、地震について取り上げています。阪神・淡路大震災から31年たちましたが、当時の被害を思い出すのも辛いという方もおられるでしょう。それでも毎年、地震を話題にするのは、発災が危惧されている南海トラフ地震への備えを怠ることができないからです。残念ながら現在の科学水準では地震発生を正確に予測することは困難です。そのため、被害が予想される地域では、非常持出品の準備や避難経路について、日頃からご家族で話し合っておく必要があります。

私自身、5年ほど前の北海道胆振東部地震で全道一斉停電(ブラックアウト)を経験しました。夜間に突然真っ暗になると、身動きが取れなくなります。小さなペンライトのようなものでもかまいませんので、非常用ライトを身の回りに準備することを強くお勧めします。

1月の予定

- |     |                              |
|-----|------------------------------|
| 7日  | 3年生補充授業                      |
| 8日  | 始業式                          |
| 14日 | 1、2年生チャレンジテスト<br>3年生第3回実力テスト |
| 19日 | 3年生実技教科テスト<br>避難訓練           |
| 27日 | 3年生学年末テスト①                   |
| 28日 | 3年生学年末テスト②                   |
| 29日 | 3年生学年末テスト③                   |
| 30日 | 3年生再試験日                      |



1月以降、インフルエンザが猛威を振るい、各学年で学級閉鎖、学年閉鎖を余儀なくされる状況が続くなが、新年を迎えました。特に3年生は進路に関わる大切な時期に入っていますので、体調管理には十分注意してください。

今年も堺市の学校園では、生徒の健やかな成長の実現に向けて、学校の充実を図るための様々な取組を展開します。引き続きご協力いただけますよう、重ねてお願い申し上げます。

ホームページのご案内

金岡南中学校ホームページは随時更新しています。次のURLまたはQRコードから最新の金岡南中学校の姿をぜひご覧ください。  
(URL <https://www.sakai.ed.jp/weblog/index.php?id=sakai114>)



